



長野県難聴児支援センター

ニュースレター

平成29年
第10号



長野県保健・疾病対策課

信州大学医学部附属病院耳鼻咽喉科

いよいよ夏本番！子どもたちは、汗をいっぱいかきながら「夏らしさ」を体験していますね。

先日、保育園で出会った子どもが「ぼくんち、大きなプールがあるんだよ！」と嬉しそうに教えてくれました。パッと思い浮かぶのは「ビバリーヒルズのような豪邸?!」ですが、よくよく話を聞いてみると、「ベランダに置いてある」「空気で膨らます」ビニールのプールのこと。「前はタライのプールだったけど、お父さんが買ってくれたの。はじめはペチャンコなのに、大きくなるんだよ～」と嬉しそうに教えてくれました。話は最後までしっかり聞かないといけないなあと思いました。

大きさや長さなど「程度を表すことば」は、人それぞれ。道を探ねたら「すぐそこですよ」と言うので、気軽に歩いていたらすごく遠かった！なんて経験もありますね。

「どのくらい」を人に伝えるときには、自分の経験と、人それぞれの実感があります。この実感を共有することが、伝えあう楽しさとも言えます。海、川、スイカ、ひまわり、カブトムシ、花火…。いろいろな「実感」「どのくらい」に出会う夏ですね！



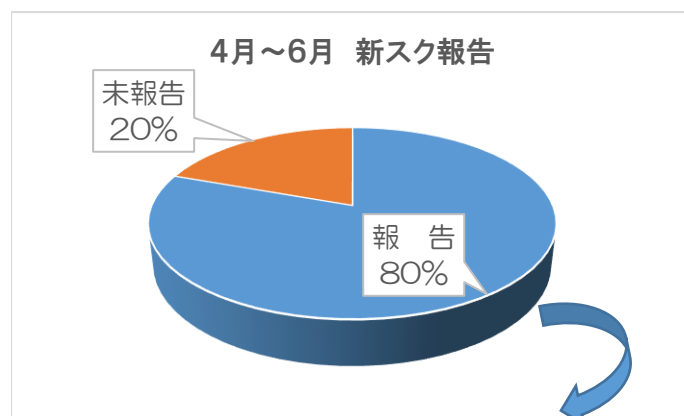
新生児聴覚スクリーニング 第一期(4月～6月)報告

四半期に一度「新生児聴覚スクリーニング実施数」を集計しております。ご報告いただいている県内各産科医・関係者の皆様、ありがとうございます。

(7月末日現在、33施設からご報告をいただいております。引き続きご協力をよろしく申し上げます)
「新生児聴覚検査」を受けた赤ちゃんは、2,979人です。残念ながら41名の保護者の方は検査を希望されませんでした。「新スクの普及と啓発」のため、当センターでもできることを考えていきたいと思えます。

新スクの結果から「確認検査」を51名が実施し、26名の赤ちゃんが「要再検査」となり、詳しい検査をするべく耳鼻科施設へとつながっております。

また、要再検査者に対する「支援連絡票」にて情報を共有させていただき、保護者の不安に寄り添うフォロー（現在11件）もできました。



対象者数 3,020人

非検査数 41人

新スク検査数 2,979人

確認検査数 51人

要再検査数 26人



7月「ファミリーセミナー」開催

7月8日（土）第2回のファミリーセミナーを開催しました。今回は、信州大学医学部附属病院で、小児難聴を主に診ている宮川麻衣子先生に講師をお願いしました。

「きこえの検査の見方」

「補聴器と人工内耳の選択」

「言語に結び付く語りかけ」 等

診察室だけではなかなか聞けないきこえの検査の見方や機器の事など、「きこえを知り、きこえを生かす」お話を具体的に学ぶことができました。



県内各地から、小さい赤ちゃんを支えるお父さんお母さん、おばあさんも参加いただきました。お子さんのきこえや発達も様々です。「聴力」とか「何がどのくらい聞こえているか」に敏感になって比べたりしてしまう時ですが、いろいろな聴力があって、いろいろな治療や療育がなされていることを宮川先生にわかりやすく教えていただきながら、「我が子の愛おしさ」とともに、このセミナーに参加しているそれぞれのお子さんを「同じようにかわいいね」とほほえましく見つめ合うまなざしと雰囲気がとても嬉しく感じました。

ご参加いただいたご家族、県の関係者、教育に携わる先生方、ありがとうございました。

みんなで赤ちゃんの成長を見守り、支えていきましょう！



第3回 ファミリーセミナーのご案内

ことばを育てる ～子どもとのやりとり・語りかけ～

- 1 日時 平成29年 8月19日（土） 午後1:00～2:30
- 2 場所 信州大学附属病院 『人工内耳センター』
- 3 講師 **北野 庸子先生**（信州大学医学部附属病院）
- 4 内容
 - ・赤ちゃんへの語りかけを楽しむ
 - ・ことばのもとになる遊び、やりとり
 - ・年齢に応じた語りかけのポイント など
- 5 参加費 **無料**

※事前に電話等でお申し込みください





支援センターより『やりとりを楽しむ絵本のご紹介』

夏休みに入り、お子さんと一緒に、ゆっくり絵本を楽しむ機会も多くなりますね。「絵本は種類がたくさんあって、選ぶのに迷ってしまう」というご相談もお受けします。基本的にはお子さんが興味を惹かれる絵本、おうちの方が「いいなあ」と思う絵本が一番だと思います。その上で、「やりとりを楽しむ、ことばを発見する」という視点から、「こんな絵本もどうでしょう」と思う絵本をご紹介します。



「これは、ねこです。」

ヒース・マッケンジー 絵 (岩崎書店)

子どもが大好きなしかけ絵本です。この絵本の面白さは「つぶやき」を一緒に楽しめることです。「これは～です」というセリフの後に、「うそだ～」「ほんとに?」「ちがうよ～!」など子どもの声がかかれています。「ねこ」「りんご」などの物の名前を言うのではなく、「ほんとかな～」「ほらね」と心の声(つぶやき)が楽しめます。きこえにくい子どもたちにとって大切な「つぶやき」です。



「ゆびさきちゃんの だいぼうけん」

岩井俊雄 著 (白泉社)

これは「にぎやか」な絵本です。女の子の「ゆびさきちゃん」が動くたびにセリフや「音」が書かれています。「わーいタッタッタ」「プンブンもうしらなーい」「トコトコ 行ってきまーす」等々。身の周りにはいろいろな音があって、子どもはあそびながらいろいろなことばや気持ちに出会っていることが実感できる絵本です。この絵本で出会ったことばを、生活の中で楽しむのもいいですね。



「よかったね ネットくん」

シャーリフ 作 八木田宣子 訳 (偕成社)

5歳、6歳くらいになると、ことばあそびが盛んになってきます。なぞなぞや替え歌など、目の前のことや現実から離れて、ことばの世界で楽しみ始めます。そのひとつに「もし～したらどうする?」という問答もありますね。この絵本は「大変!」という架空の心配事を白黒で、「よかった」という解決案がカラーで描かれていて、現実的にはあり得ないような困難を次々に解決し、また「～したらどうしよう…」と空想します。親子で空想遊びを楽しみながら「きっこうすればいいよ!」とことばあそびを楽しみましょう!



保護者用小冊子 ご活用ください！

新生児聴覚検査ハンドブックの改訂に合わせて、保護者の不安や戸惑いに少しでもお役に立てればと、小冊子「赤ちゃんのこぼ」を作成しました。

この冊子は、新生児聴覚スクリーニングで「要再検査」を伝えられたご家族の方へ、難聴児支援センターの紹介とともにお配りいただいています。

- 新生児聴覚スクリーニングについて
- 1) 新生児聴覚スクリーニングとは
 - 2) 「要再検査」と言われたら
- 子育てについて～日々のかかわり～
- 1) 赤ちゃんとお話する
 - 2) 赤ちゃんがたくさんあそぶ
 - 3) 人とつながる



主な内容は…



県内各産科施設より保護者の方にお配りいただき、足りなくなったところへ追加送付しております。
(必要な冊数など、随時、お申し付けください。)

みみよい情報

◇水泳指導や校外活動に「磁気式メモボード」



水遊びやプール学習では、補聴器を外して参加しています。情報を伝えるために、スケッチブックやホワイトボードでの文字情報をお願いしていました。そんな中、先日ある小学校で実践されていたのが「磁気式メモボード」です。これなら水にぬれても汚れたり消えたりすることなく書いて伝えられるので安心です。水泳の他、生活科などの校外活動でも有効に使えるそうですね。

長野県難聴児支援センター

TEL:0263-34-6588

FAX:0263-34-6589

Mail:mimi@shinshu-u.ac.jp

住所：松本市旭 2-11-30 松本旭町庁舎 2 階

支援療育員；丸山秀樹

※ご相談、お問い合わせ等
お気軽にご連絡ください

